

# 大和三田会 会報

Keio University



No. 15

2023年12月

## 目次

- |                          |        |       |
|--------------------------|--------|-------|
| 1. 新年会                   |        | P. 2  |
| 2. 第16回大和三田会総会および懇親会     |        | P. 13 |
| 3. その他催しもの<br>「北斎・国芳」鑑賞会 |        | P. 27 |
| 4. 寄稿                    |        |       |
| (1) 美しい里山を旅する            | 河野 和彦  | P. 29 |
| (2) 白球を追いかけた青春           | 片山 大次郎 | P. 31 |
| (3) 大和市に住んで25年           | 常泉 由里  | P. 32 |
| 5. 令和6年 新年会のお知らせ         |        | P. 34 |

## 1. 新年会

令和5年1月14日（土曜日）、横浜うかい亭にて、新年会が開催されました。会員、会員のご家族、友人、ゲスト合わせて19名が参加し、太田善夫総務委員長（昭和60年法学部卒）の司会で、和やかに旧交を温め新年を祝いました。

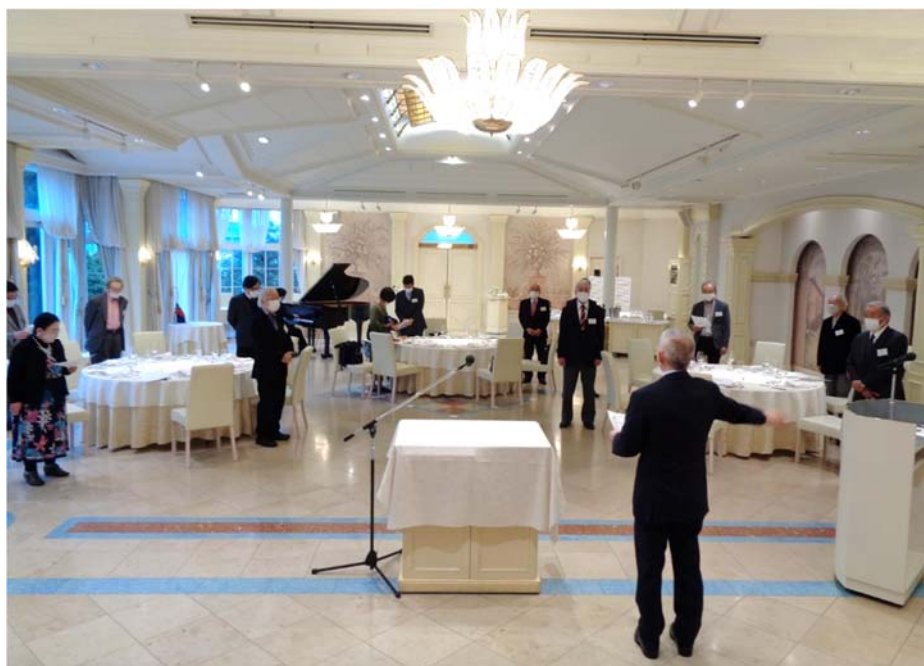
開会に先立ち、参加者全員の記念撮影が行われました。



太田善夫総務委員長より、開会の辞が述べられました。



指揮：吉村満副会長（昭和 48 年法学部卒）、ピアノ：石井一夫幹事（昭和 49 年文学部卒）のもとで、塾歌を斉唱しました。



石塚雅男会長（昭和 40 年経済学部卒）が次のように挨拶されました。

コロナの影響で 3 年ほど、大和三田会の活動が制限されました。令和 4 年新年会から活動を再開し、本日、令和 5 年の新年会を迎えることができました。しかし、ロシアのウクライナ侵攻、近年にない円安など、我が国を取り巻く環境は、まだまだ楽観できません。

そんななか、来年の箱根駅伝は 100 回を迎え、記念に過去の優勝校が招待されると耳にしています。我が義塾は第 13 回大会に 1 回だけ優勝したことがありますので、参加できるかも知れません。

もし、そうなったら、皆で応援に行きましょう。少なくとも私が塾生だった頃、3 回は箱根駅伝に我が慶応義塾大学は参加した記憶があります。思うだけでも“若き血”が燃えます。



古木幹事長（昭和 44 年経済学部卒）より、同伴者が紹介されました。



菊地弘副会長（昭和 45 年経済学部卒）の音頭で、乾杯がなされました。



テーブル毎に懇談が行われ、そのあと全員が近況報告をしました。















甘利明顧問（昭和 47 年法学部卒）からの祝電が披露されました。

片山真志君（8歳）が“野バラ”などを弾いてくださいました。



指揮：吉村満副会長、ピアノ伴奏：石井一夫幹事のもとで、塾歌を斉唱しました。



片山大武郎会員（平成 22 年商学部卒）の発声で、エールが行われました。



新田義孝広報委員長が閉会の辞を述べて、新年会は終了しました。



## 2. 第16回大和三田会総会および懇親会

### 第1部 総会

#### 1) 開会のことば

太田善夫総務委員長（昭和60年法学部卒）より開会が宣言されました。

#### 2) 物故会員 黙祷

令和5年5月29日にご逝去された島村浩会員（昭和29年経済学部卒）に黙祷を捧げました。

#### 3) 会長挨拶

石塚雅男会長（昭和40年経済学部卒）より、次の挨拶がなされました。

大和三田会は平成20年9月23日の総会をもって発足しました。当時、塾監局より入手した塾員名簿には大和市在住者が794名おられました。大和三田会設立案内を作成して皆で作業し郵送した結果、115名程から入会の希望がありました。約75名が総会に出席され設立が承認されました。

この年は、慶應義塾創立150周年、また翌年には大和市政50周年を控えており、記念すべき年でもありました。

この様にスタートし色々な活動を行い今日に至っておりますが、若い会員の転勤、高齢者の逝去等々で、年々会員が減り、現在50名弱の会員数となっております。しかし、“コロナ明け”を機に、再出発して新会員の拡充を図り、充実した大和三田会へと盛り上げて行きたいと思っています。



#### 4) 議案審議

太田善夫総務委員長の司会のもと、第1号議案（令和4年度事業報告・会計報告）、監査報告、第2号議案（令和5年度事業計画案・予算計画書案）が河野和彦事業委員長（昭和44年法学部卒）、新田義孝広報委員長（昭和43年工学部卒）そして、土橋篤会計（昭和50年工学部卒）から報告・提案され、拍手を以て承認されました。



## 第2部 講演会

不動産鑑定士 吉村満副会長（昭和48年法学部卒）より、「大和市の街並みの変化について」と題して講演がなされました。

大和市は南北に細長く、狭い市域を各鉄道が縦横しており、市内には8つの駅がある。市内のいずれも駅まで徒歩圏内にあって交通利便性に恵まれ、東京、横浜への連絡も良好であるが、人の流れは市の中心部に向かうことなく拡散する傾向にある。

大和市の中央を縦断する小田急線により、東西の地区が分断されているが、東側地区の変貌は目覚ましく、工場跡地等に大型のショッピングモール、大型マンション等が続々と建設されている。中央林間駅の東側地区は、以前は野原が広がっていたが、次第に街区が整備され、昭和59年に田園都市線が中央林間駅迄延伸し小田急線と交差するターミナル駅となってからは、東急ストアも開店し、マンションの建設も相次いだ。

鶴間駅の東側、市役所、市立病院の隣接地に大型ショッピングモール、オークシティが展開し、人の流れは東側方向に移っている。

大和駅の東側地区に、芸術文化ホール、図書館等が入るシリウスが完成し、図書館には多くの入場者が押し寄せている。大和駅周辺は相鉄線の地下化等により街区整備が進められたが、商況は停滞気味であり、飛躍的な発展を続けている海老名駅周辺と比べ、大きな発展は見られない。

高座渋谷駅周辺は土地区画整理事業により地域は一変し、大和市の基本計画では大和市南部の拠点と位置づけられている。土地区画整理事業は大和市北東部の境川沿い等でも行われているほか市内各所で建売住宅が分譲されているが、土地の面積は年々小規模になっている反面、分譲価格は高騰を続けている。



## 第3部 懇親会

### 1) 塾歌斉唱

吉村満副会長（昭和48年法学部卒）の指揮、石井一夫幹事（昭和49年文学部卒）のピアノ伴奏で、塾歌を斉唱しました。



### 2) 菊地副会長挨拶

菊地弘副会長（昭和45年経済学部卒）より、4年前に市議を退任してほっとして本日に至ります。今日は誕生日でもあり、“マスクがとれた”喜びを一層噛みしめています。コロナ禍の前に立ち戻って早慶ゴルフなど愉快地にやりたいものですとの挨拶がなされました。





### 3) 来賓・同伴者紹介

古木通夫幹事長（昭和 44 年経済学部卒）より、来賓・同伴者が紹介されました。

#### 来賓：

大和早稲田大学稲門会      小澤重晴副会長&事務局長殿、渡辺伸明副幹事長殿

大和桜門会                      濱田義之副会長殿、安藤博夫幹事長殿

大和白門会                      岡田孝子会長殿、前川賢治副会長殿、小田敏博副会長殿

#### 同伴者：

太田百合子様、太田善貴様、片山恵梨様、片山真志様、片山美咲様、加藤恒夫様



4) ご来賓より、それぞれご挨拶を受けました。

早稲田大学 大和稲門会 小澤重晴副会長  
日本大学 大和桜門会 濱田義之副会長  
中央大学 大和白門会 岡田 孝子会長



5) 乾杯

鈴木博監事(昭和50年医学部卒)の音頭で、乾杯をしました。



## 6) 慶応歌集斉唱

吉村満副会長の指揮、石井一夫幹事のピアノ伴奏で、慶応賛歌、若き血を斉唱しました。

## 7) エール

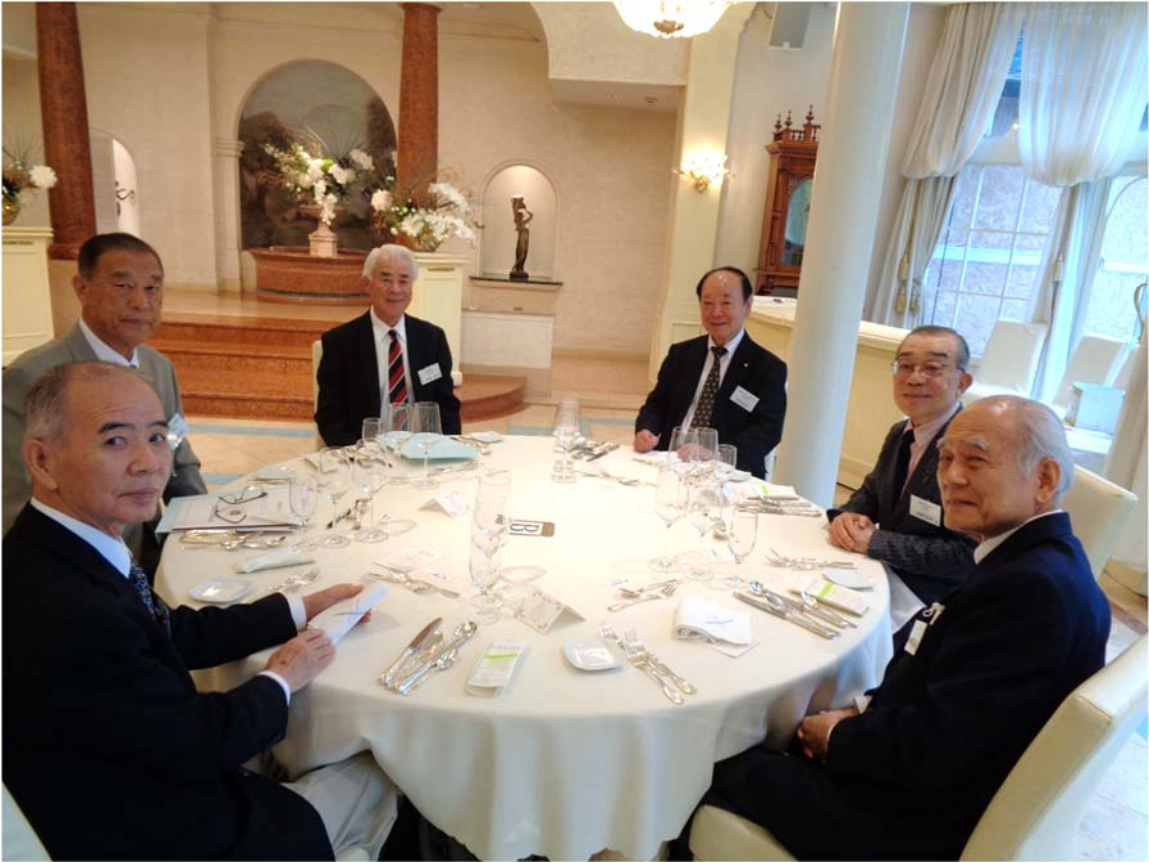
片山大次郎会員（平成 22 年商学部卒）の発声で、エールの交換を行いました。



## 8) 終了

終了の挨拶が、太田善夫総務委員長よりなされ、閉会となりました。















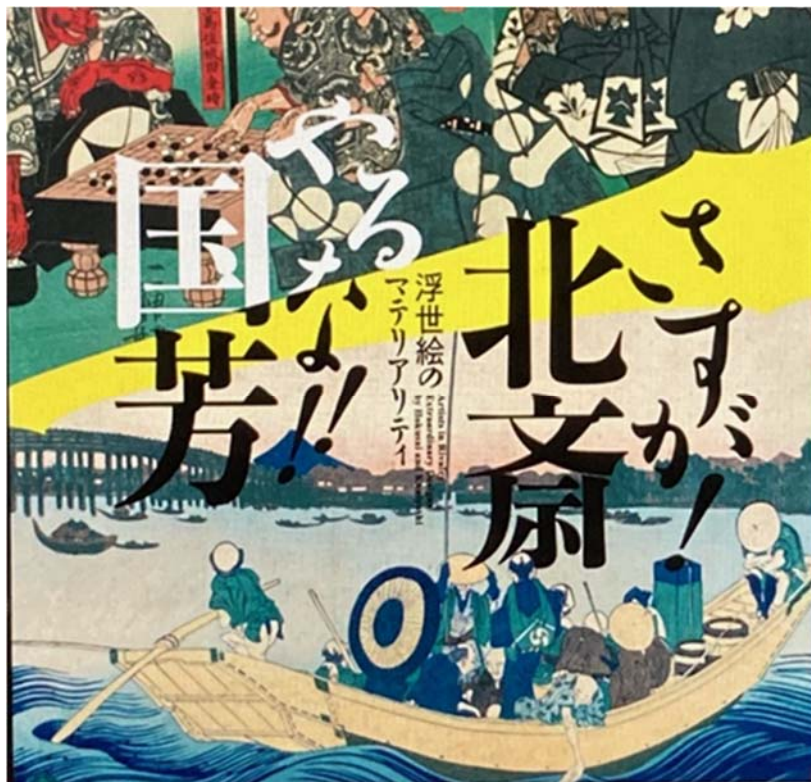




### 3. その他催しもの

「北斎・国芳」鑑賞会

吉村 満（昭和 48 年法学部卒業）



7月13日、河野事業委員長の呼びかけによる「さすが! 北斎、やるな!! 国芳」と題した葛飾北斎、歌川国芳の浮世絵展示会に行ってきました。会場は三田の東門（昔の幻の門）近くの慶應義塾ミュージアム・コモンズ。参加者は石塚会長、河野夫妻、石井、牛山、太田、常泉、吉村の各会員の総勢8名。11時のオープンと同時に3階の展示場に向かいました。中に入ると、富嶽三十六景等の北斎作品、国芳作品の浮世絵の名作合計56点が展示されています。



それぞれの作品はいずれも元塾長の高橋誠一郎先生のコレクションで慶應義塾に寄贈されたものです。浮世絵の繊細な筆使い、鮮やかな色彩に目を奪われ、度々、間のガラスに頭を打ちつけてしまいました。別室には下絵が展示されていました。絵師の下絵をもとに、優れた彫師、摺師の影に隠れた仕事により初めて浮世絵が完成されることを改めて認識しました。浮世絵鑑賞に夢中になるうちに昼食の予約時間に迫り、一同は慌てて校内の慶應義塾ファカルティクラブに移動しました。慶應義塾ファカルティクラブは塾員、教職員を対象とする食堂です。全員が奥の席に陣取り、食事が始まりました。和気あいあいという雰囲気の中、つきることのない話題で昼食は長時間に及びました。会話の内容は非公開です。帰りは懐かしい校庭を横切り、正門から退出しました。河野夫妻は、そのあと正門向かいの慶應義塾アート・センターで開かれている「歌舞伎への情熱」展に行かれました。その元気なご様子には脱帽します。



## 4. 寄稿

### (1) 美しい里山を旅する（日本の自然の再認識） 河野 和彦 （昭和 44 年法学部卒）

十数年前に知人が購入した上越の山里の古民家見学を兼ねて二泊三日の旅に出ました。この近くには有名な名所旧跡等はないので、出発する前は大分不安がありました。「観る物もなく美味しい食事処もないような場所で3日間も過ごせるのだろうか」と。現地に行つて、この不安は見事にハズレました。何も無いから良かったのです。

泊りは、「かやぶきの里」という茅葺の民家で、一階の板敷の食堂には大きな囲炉裏、二階が客室になっていて、すべて和室。料理は地元の叔母さんたちの手料理。食材は畑や周囲の山林で取れる野菜と山菜が中心。これがとてつもなく美味しいのです！

特に初春の山菜は格別です。この山菜料理に魅せられ、毎年5月の連休明けに二泊するのが我が家の通年行事になりました。

昼間の時間つぶしに困ることもありません。集落の周りの里山めぐりが楽しいのです。春にはゼンマイ、ワラビ、蕨の臺などの山菜、花はカタクリ、黄すみれ、イワカガミ、ショウジョウバカマ、見上げると朴の木の白い花や山藤などなど。水を張った棚田も見応えがあります。30分ほどドライブすれば「星峠の棚田」やブナの「美人林」。近隣の大巖寺高原の水芭蕉や善根（ぜごん）の滝も観光客が殆どいませんのでゆっくり鑑賞できます。夏には宿から歩いて5分ほどの川沿いで蛍の舞うのが見られます。見飽きたせいか地元の人も少なく貸し切り状態です。このように観光地化されていない里山めぐりの楽しさに目覚めましたので、コロナ禍で海外旅行に行けなくなっても、旅先に困ることがなくなりました。

福島県の奥会津の地方の桧枝岐は平家の落人伝説のある集落で尾瀬沼への登山基地でも有名ですが、桧枝岐以外にも小さな集落が点在し、どこも温泉を備えた宿や民宿があり、心のこもった手料理で迎えてくれます。山岳ドライブの好きな私にとっては往復の運転も魅力的です。

最近は上記の場所に加え、乗鞍高原、白馬村などの山岳リゾートや南房総の海岸リゾートにも行くようになりました。

茶道をする者にとって、たくさんの山野草を身近に見られることはとても価値があります。茶席で使う茶花の多くが山野草だからです。それで簡単な茶道具を持参し自然の中で野点を楽しんでいます。

日本には、入園料の要らない美しい自然の山野で好きな茶の湯を楽しむ、という贅沢な時間を持てる場所が身近に沢山あります。煎茶やコーヒー、紅茶でも裕福な時間を過ごせます。ぜひ三田会会員の皆様も里山に目を向けていただくことをお勧めいたします。



茅葺きの家



美人林



かたくりと黄スマイレ



黄ケマン



イワカガミ



野点 (1)



野点 (2)

## (2) 白球を追いかけた青春

片山 大次郎 (平成 22 年商学部卒)

2021 年 秋季東京六大学野球リーグによる慶應義塾体育会野球部の優勝、2023 年 第 105 回全国高等学校野球選手権記念大会 (夏の甲子園) の慶應義塾高校の優勝と近年、慶應野球部の活躍には目を見張るものがあります。

昔から野球が好きだった私も平成 12 年に慶應普通部の軟式野球部に入部、その後平成 15 年に慶應義塾湘南藤沢高等学校の硬式野球部に所属し、青春の 6 年間を過ごしました。そんな私が野球部を卒業してから 15 年以上経った今でも忘れられない光景があります。それは、高校 3 年生の時の全国高校学校野球選手権大会 (夏の甲子園) の神奈川予選であります。

高校 1 年、2 年の時にベンチ入りを果たせなかった私にとって夏の甲子園大会に出場する事は目標であり、1 度はスタンドの大応援団に囲まれた中でバッターボックスに立ちたいと憧れておりました。そして、練習の成果もあり、高校 3 年生の時に始めてベンチ入りをし、初戦は 1 番 ショートのポジションでスタメン出場を果たしました。また、試合会場も大和スタジアムで行われた事もあり、多くの親戚や家族が応援に駆けつけてくれました。

1 回表に 1 点を先制され、迎えた 1 回裏の攻撃。練習試合では何度も経験しておりましたが、1 発勝負の緊張感は独特の雰囲気があり、憧れていたバッターボックスに入った時は足が震えるほどでした。そんな緊張感を和らげてくれたのは、球場中に響き渡る応援スタンドからの吹奏楽部の演奏と声援でした。バッターボックスから聞こえる応援スタンドの声援は、まるで背中を押してくれるように勇気を奮い立たせてくれました。応援に勇気づけられた私は、何とか冷静さを取り戻し、四球を選び、仲間のヒットで同点のホームを踏み、勢いに乗ったチームを逆転勝利に結びつける事が出来ました。その後チームは 3 回戦で敗退してしまいましたが、私にとってその時の経験は一生に一度の忘れられない経験となり、今でも夢に出るほどの貴重な思い出です。

最近では、我が母校である慶應義塾湘南藤沢高等学校が 2023 年夏の甲子園大会の神奈川予選で 4 回戦まで勝ち上がり、強豪東海大相模高校と対戦をする事が決まり、家族 4 人で応援に行きました。当時と変わらぬ応援スタンドからの声援は懐かしさを覚えました。当時と最も変わったのは 36℃を超える暑さでした。そんな猛暑の中でも 1 球 1 打に込める高校球児の姿は、残念ながら試合には敗れてしまいましたが、清々しく感動を覚える貴重な経験でした。

これからも、我が母校の益々の野球部の活躍に期待し、見守っていきたいと思います。

### (3) 大和市に住んで 25 年

常泉 由里 (昭和 51 年文学部卒)

今夏は耐え難い酷暑が 2 か月以上続き、外出の際は冷感スプレーを吹き付け、飲み物に塩飴持参でとシニアなりの熱中症対策を心掛ける日々でした。

そんな中、慶応高校の甲子園での健闘には、「エンジョイ ベースボール」という話題性と共に、毎試合、心熱く楽しませてもらいました。祖父の好きだった高校野球を一緒に見ながら育ったところもあり、故郷のカープより高校野球、そして見慣れた応援風景の塾高の快進撃からは目を離せず、予定は変更してでも TV 観戦を優先するような日も。

大学時代の同好会グループ LINE の画面には、チャンスや得点の度にトークやスタンプが飛び交い、何度も流れる『若き血』に心は躍り、まるで半世紀前、同じ仲間と神宮で慶早戦を応援した頃に戻ったかのようでした。半世紀もたてば当然我々は古希を迎える年齢、そして学生時代には想像さえできなかったスマホでのやりとり、健康でいる事がどんなに大切に幸せな時間を持てるものか、改めて強く感じた今年の夏でした。

そんな友人達に日吉地下壕見学や三田ミュージアムコモンズ鑑賞等、大和三田会でのイベントの話をする、たいへんうらやましがられます。夫婦とも慶応卒にも関わらず、自分の地元の三田会の事を知らない友人が多い中、年 2 回の家族同伴の和やかな会合も楽しませて頂き、大和三田会の皆様には感謝するばかりです。

そんな大和に住み始めて 25 年あまり過ぎました。結婚後住み始めたのは、主人の会社が都内から相模川沿いに移転した直後で愛甲郡愛川町でしたが、何とも不便な場所、長男が生まれた後、つきみ野 7 丁目に土地を購入しました。大和市にはそれまで何のご縁もなく、我々には未知の土地でしたが、当時、知り合いからの情報だったのか、つきみ野駅そばのビルの 1 階が時間制限なしの無料駐車場と知り、愛川町から運転、そこに駐車しては電車で都内の友人や兄に会いに行っていた記憶が戻りました。そして、駅周辺の雰囲気や、主人の実家へもつながる東急線の便利さに惹かれ、土地探しを始めたのだと思います。が、設計依頼中に転勤が決まり、土地も返却しましたが、当時、駅周辺には空地も多く、より便利な土地が見つかるという希望的観測が。しかし期待通りにはいかず、バブル景気で地価も急上昇、2 年後に戻る際、つきみ野戸建ては断念せざるを得ず、高い倍率ながらも購入できた海老名市のマンション住まいが始まりました。それでも、戸建てに住むのはやはりつきみ野との思いは変わらず、数年後、何とか 6 丁目に土地が見つかり、ようやく地鎮祭を終えた時に今度は突然の海外赴任、4 年後の帰国後、やっと建築スタートに。大和市民になったとはいえ、それまで市役所も近隣の医療施設も確認せず、子供達の学校でさえ帰国が決まってからの情報収集、スマホ操作での情報ができなかった時代とはいえ、いい加減な選択をした無責任な親だったと思います。その後「常泉寺さんですか？」という電話があったり、近所の方に「お寺の方？」と聞かれ、高座渋谷に常泉寺という寺がある事を初めて知りました。数年前のミツマタの季節、初めて行ってみましたが、表門近くからはくっきりと富士山も眺められる場所でもあり、



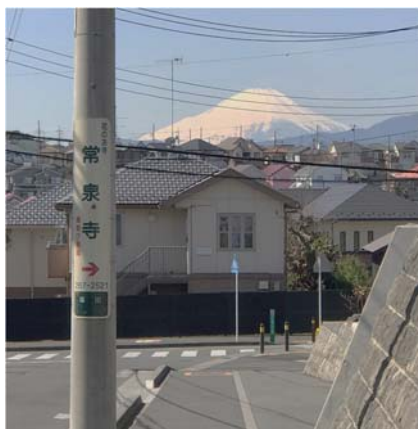
あらためて大和市とのご縁を感じたものでした。

静かな戸建て住宅地として住み始めたつきみ野も、25年余りの間にかなり変化しました。中央林間は言わずもがな。田園都市線が便利になるにつれ、空地や公園はマンションや駐車場に変わり、目に入る木々の緑が減っていった事を思い出します。一時は老人ホームが併設？と言われた小学校も生徒数増加で教室が不足し、つきみ野のはずれとはいえ映画館もでき、徒歩圏で映画が楽しめた時期もありました。

ショッピングモールや町田市とはいえ隣駅には予想外に大きなアウトレット、ここ数年はまさかまさかの連続でした。シリウス完成時、数階に渡る図書館フロアは大和市には広すぎではとの感がありましたが、何度か子供連れで里帰りしてくる娘達には、あつという間にできたポラリスの子供広場も含め、楽しみな場所になりました。シリウスの大ホールはナベサダもウィーン少年合唱団、松竹歌舞伎までが楽しめる場所となり、都内や横浜に出る事もなく、コンサートや観劇を楽しめる事に感激しました。移動中の大地震の不安はもちろん、年齢を重ねるごとに電車での遠出が辛くなる身には、何ともありがたい事、これからは様々な年齢層に、有意義な時間を与えてくれる場所になる事だと思います。中央林間の図書館もほっとできるスペース。試験前の学生と並んで、ゆったりと本を読むシニアの姿は何とも微笑ましい眺めです。相模原市のようにパスポートセンターが市内にできれば最高、とは海外旅行好きな友人の言葉でした。四半世紀の間には様々な変化があつて当然で、気になる空き家も目にしますが、つきみ野駅の外観や周辺の雰囲気は以前とあまり変わらない事はほっとするところです。ロータリー前の木がバッサリ切られてしまった事には驚きましたが、最近では季節の花で彩られる歩道の植樹柵やフラワーボックスが増え、駅を往復する度に心が和みます。“桜の散歩道”の八重桜やウコン桜も見事です。桜の季節が終わっても季節の様々な花が楽しませてくれるだけでなく、お世話をしてくださる住民の方々の気持ちで心も温かくなります。

今後につきみ野駅周辺は、より花や緑を楽しめる場所となる計画があるとか。

こんなちょっとした活動が市全体に広がれば、大和市は市民だけでなく、多くの人にとって、又新しい魅力のある市になるのではと思います。



## 5. 令和6年新年会のお知らせ

令和6年1月13日（土）12時より、相模大塚 タクカフェにて、新年会が開催されます。皆様お誘いのうえ、ご参加をお待ちしております。

### 大和三田会 ホームページ

大和三田会では設立10周年記念事業の一つとして、ホームページを開設しました。新年会や総会の場で画面をご覧いただき、会員の皆様に便利にご利用いただけ、ひいては会員の増強に努めてまいります。

yamatomitakai.com または下記 QR コードで HP にアクセスできます。



### ホームページ作成委員会

#### Facebook「大和三田会」ページのお知らせ

登録希望の方は、新田義孝会員（昭和43年工学部卒）（dr.nitta@jcom.home.ne.jp）までメールにてご連絡ください。Facebook上のURLは、下記の通りです。

<https://www.facebook.com/groups/503664693031288>